

がんセンターたより

新しいがんセンター 部門紹介（第1回）

神奈川県立がんセンターは、平成25年11月2日に新病院へ移転、開院いたしました。そこで、がんセンターのことをもっと知っていただくということで、今回から数回にわたり新病院移転の苦労話を交え各部門の紹介をしていきたいと思います。

第1回目は、患者支援センター 患者支援室、総合整備推進部 新がんセンター総合整備室、医事課、経営企画課、総務課、SPC（神奈川メディカルサービス株式会社）の6部門をご紹介します。

患者支援センター 患者支援室

「患者支援室」は患者支援センター7医療相談窓口の奥に位置しています。受診受付、地域医療連携、医療相談等の業務を主とする部署です。相談室は6室、各担当業務には専用電話を設置しました。都道府県がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターとしては、一般市民や医療福祉関係者のがんの医療や、療養・生活に関する相談にも対応しています。また、患者支援センターの「がん情報コーナー」では定期的な患者サロンや肝臓膵教室などの開催を始めました。

新病院への移転準備期間には老朽化したエレベーターの故障というアクシデントがありましたが、近隣の連携医療機関の皆様にご協力をいただくこともでき、予定より早く病床制限でき、無事移転できました。ありがとうございました。



がん情報コーナーができました

患者支援室は室長と科長2名（相談支援担当科長、ベッドコントロール・後方連携担当科長）、看護師、MSW等のスタッフが一丸となり頑張っています。新がんセンターの患者支援室をどうぞよろしくお願いいたします。

患者支援センター 患者支援室
受付時間：8時30分～17時15分

初診予約	045-520-2210（直通電話）
セカンドオピニオン予約	045-520-2210（直通電話）
	045-520-2215（直通FAX）
医療相談・がん相談支援センター	
	045-520-2211（直通電話）
後方連携担当	045-520-2212（直通電話）
	045-520-2215（直通FAX）



患者支援センター7のカウンターが来院者の相談受付窓口となります

総合整備推進部 新がんセンター総合整備室

* 引越しの際に苦労した点

総合整備室では、患者搬送・物品搬送等の病院移転計画全般の策定・調整等を実施しました。当初は、2, 3日間で引越してできるものと考えていましたが、物量や搬出口の数から1ヶ月以上の日数を要することが判明し、診療制限や入院患者数の制限等の方針を打ち出さざるを得ず、とても苦労しました。

* 引越しして良かった点

総合整備室は管理研究棟の3階にありますが、事務部門に加えて管理者や医局、看護局等と日々接するようになり、スタッフ間の距離が縮まった気がしております。

経営企画課

* 引越しの際に苦労した点

物品・備品の大量購入や機器等の移設・引越しに係る業務委託のために、数え切れなくらい多くの入札・契約・支払い事務を行ったこと。物流業務の新しい運用設計に係る業務調整。等々...

* 引越しして良かった点

移転後円滑に入院・外来業務の再開ができたこと。コンビニやコーヒーショップで患者さんがゆっくり過ごすことができるようになったこと。

* 経営企画課の業務

経理事務や予算決算などの財務業務を行っています。何十億円もの金額を扱っています。

医事課

医事課は病院棟1階患者支援センター内にあり、診療報酬の請求に関することを主な業務としています。

医事課の新病院への引越し準備は、前年度から始まりました。電子カルテに移行したとはいえ、開院してから50年を迎えており、大量のカルテが病院内の各所に保管されておりました。新病院に保管しきれないカルテを外部倉庫に移管するため、真夏にエレベーターのない5階の倉庫から階段を使ってカルテを運んだことなどは、今となっては良い思い出です。これらの作業は、事務職員全員の協力がなければやり遂げることは出来なかったと思います。

総務課

* 引越しの際に苦労した点

県知事等の来賓を招いた開院式の準備、膨大な資料を短期間に揃えた関係機関への申請・届出手続き、全職員への白衣やセキュティーカードの配布、駐車場のルール作り等々、大変なことはいくらかでもありました。

* 引越しして良かった点

新しい病院で職員が活き活き働いていること。また、きれいな保育園で子どもたちが元気一杯遊んでいる様子が見られること。

* 総務課の業務

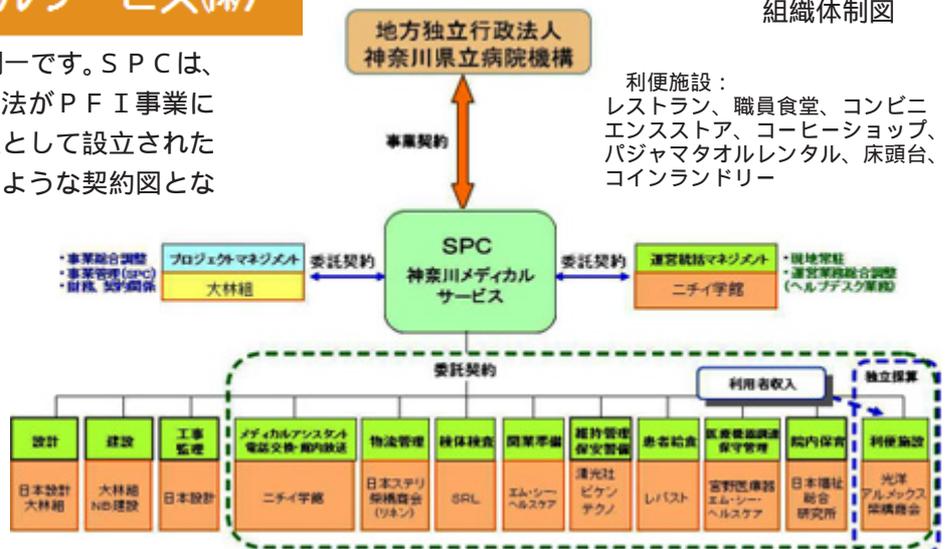
人事業務、給与事務、施設管理等病院を運営していくために欠かせない仕事をしています。

SPC (神奈川メディカルサービス(株))

SPCで統括マネージャーの石井潤一です。SPCは、この度、新病院からの病院の運営手法がPFI事業になるにあたって、本事業の実施会社として設立された会社になります。本事業は添付図のような契約図となり、事業落札後(平成21年12月)から、新病院開院に向けて準備を進めてきました。

今後も病院運営に積極的に参画し、本来の意味での『公・民の協働』に努めてまいりたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

添付図 神奈川県立がんセンター特定事業者
組織体制図



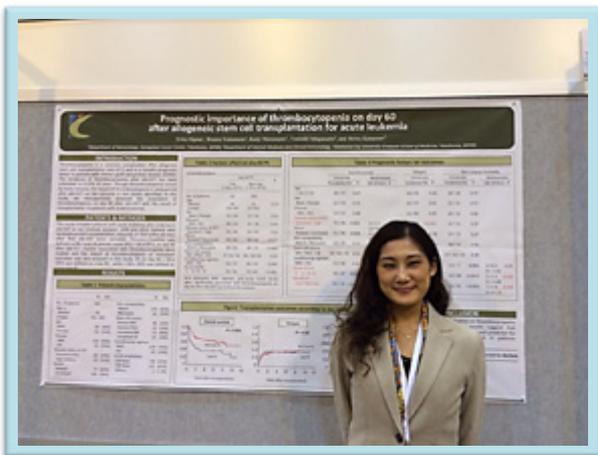
第55回米国血液学会(ASH Annual Meeting and Exposition)に参加して

学会 報告

第15回世界肺癌学会議 (IASLC; International Association for the Study of Lung Cancer 2013)に参加して

血液内科 大草 恵理子

2013年12月7日～10日に、アメリカのニューオリンズで第55回ASH Annual Meeting and Expositionが開催されました。「Prognostic importance of thrombocytopenia on day 60 after allogeneic stem cell transplantation for acute leukemia」という当院の造血幹細胞移植の研究をポスター発表する機会をいただき、同じく発表される腫瘍内科の渡辺玲奈先生と、ありがたくも海外学会へ参加してまいりました。朝早くからの英語漬けで頭がパンクしそうになりながら、なんとか発表を終えることができました。英語能力が足りず、せっかくご質問頂いた内容にもうまく答えられない場面もありましたが、貴重なコメントなども頂き、非常に大きな経験をさせて頂きました。学会中は移植関連の講演を中心に聴講していましたが、Trainee向けのプレゼンテーションのポイントレクチャーが面白く、英語能力も合わせ、伝える技術の重要性を感じました。会場は広大で、全世界から数多くの医療者の集まるアメリカの学会の熱意を肌で感じ、更に精進しようという原動力となりました。



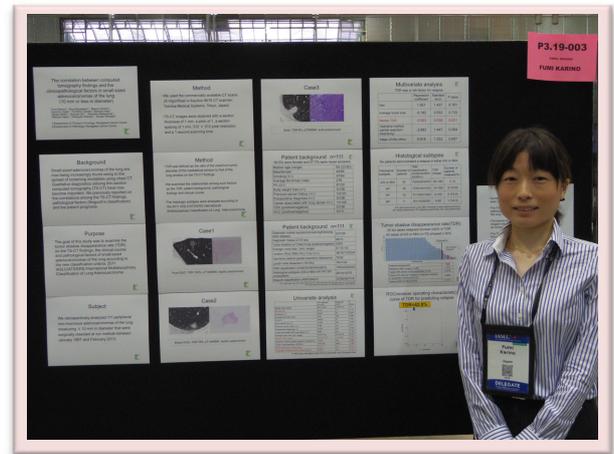
レジデント 狩野 芙美

2013年10月27-30日にオーストラリアのシドニーで開催された、第15回世界肺癌学会議 (IASLC 2013)に参加し、Poster sessionで「小型肺腺癌の臨床像、TS(thin-section)-CT画像所見および病理所見の対比検討」に関する発表を行いました。

今回の学会では、新規チロシンキナーゼ阻害薬 (AP26113) や、日本発の選択的ALK阻害薬 (alectinib)など、分子標的治療薬に関するトピックスが多かったです。

IASLCは2年に1度の開催で、世界中から数多くの演題が提出され、肺癌に関する最新の知見を得ることができます。またシドニーの10月は日本の春に相当し、温暖で過ごしやすい時期であり、学会に連日気持ちよく参加することができました。ポスター会場では、世界中の研究者と交流する機会に恵まれ、大いに国際学会の環境に触れ、刺激になりました。

次の国際学会では、今回の研究をさらに深めて発表できるよう、日々精進したいと思います。



神奈川県保健衛生表彰
を受賞して



写真左より：

丹野検査科部長、 渡邊副院長兼看護局長、
坂田放射線治療技術科部長

放射線治療技術科部長 坂田 幸三

この度、平成25年度神奈川県保健衛生表彰を黒岩知事より頂き大変名誉なことであり身に余る光栄です。これまでご指導いただきました諸先輩並びに若輩の私を支えて下さりました皆様に厚く感謝いたしております。

昭和57年より小田原保健所勤務をスタートに2保健所・4県立病院に勤務して参りました。現在も昨年11月に新しくなりましたがんセンターにて、微力ながら患者さんのために保健衛生の仕事をさせて頂いております。

今までの32年間の業務の中でも、現在の新がんセンター開院に向けて最新の医療機器（高精度放射線治療装置、320列CT、3.0テスラMRI、FPDポータブル撮影装置等）を導入する事に携わることができましたことと、実際にこれらの機器が稼働している現場で仕事をできることが、私にとって幸せなことだと感謝しております。

今後はこの榮譽に恥じることをないように微力ながら患者さんの保健衛生向上により一層邁進してまいりますので今後もよろしくお願いいたします。

副院長兼看護局長 渡邊 真理

2013年11月13日に神奈川県保健衛生表彰（医療関係功労者）を受賞いたしました。本賞は神奈川県が「多年にわたり、県内の医療、環境衛生、食品衛生、薬事、地域公衆衛生など、保健衛生の向上に尽力された個人、団体、施設の功績を広く県民の皆様に顕彰するために毎年度行う」もので、今回で54回目だそうです。そのような年齢であるという自覚と責任を感じると同時に、今までご支援いただいた皆様のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。私の看護師としてのスタートは、当院の前身である神奈川県立成人病センターでした。その後、助産師としての臨床経験、看護基礎教育の教員、看護教員養成課程の教員と様々な経験を経て、がんセンターには計3回異動で出入りしています。その後2003年にがん看護専門看護師の資格を取得し、院内外で多くの機会をいただいたことが今回の受賞につながったのだと感じています。これからも皆様に支えられながら、歩んでいきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

検査科部長 丹野 秀樹

この度、平成25年度神奈川県保健衛生表彰を頂き大変名誉な事であり身に余る光栄と存じます。これまでご指導頂きました諸先輩や先生方並びに私を支えて下さいました皆様に厚く感謝いたしております。

昭和54年より神奈川県立厚木病院を皮切りに3病院に勤務し、現在は神奈川県立がんセンターで臨床検査の仕事させて頂いております。

厚木病院の尿検査で毎日患者さんの状態をみてきたことが私の臨床検査技師としての基礎となっている思いがします。その後病理検査という生涯離れられないであろう検査に遭遇してまいりました。がんセンターでは病院の引越しという大きな事業で、専門性に特化した検査科の構築、外来採血業務の運営等に携わることが出来たのは私にとって幸せなことだと感謝しております。

今後はこの榮譽に恥じることをないように微力ながら保健衛生の向上に努力するとともに後輩の育成にも力を入れいくつもりです。

新任医師の紹介 よろしくお願ひします

婦人科
医長 近内 勝幸



昨年10月に着任しました、近内（こんない）です。3年半ぶりですが、再び当院の一員となった事、病院の引越しを経験できた事、重ねて嬉しく思います。

さて、今年6月に我々婦人科が中心となり、第55回日本臨床細胞学会総会を開催します。6月8日（日）には、市民公開講座も行われます。「横浜から発信する日本のがん予防と治療の最前線」という興味深いテーマですので、皆様ぜひご参加下さい。（詳しくは婦人科スタッフまで）

神奈川県立がんセンター 第5回市民公開講座 「がんを知る」を開催しました



平成26年1月25日（土）はまぎんホールで市民公開講座「急性白血病と悪性リンパ腫の最新治療」が開催された。当日は400名近い参加があり、新病院の紹介（中山副院長）に引き続いて、血液がんの化学療法や造血幹細胞移植について血液内科（金森、山本、松本）・腫瘍内科（酒井、高崎）による講演および移植後フォローアップ外来について看護師（平野）から報告があった。会場からは「最新治療の情報が得られて心強く思った」等のご意見もいただき、質疑も含めて充実した公開講座であった。（企画情報部 金森平和）

検査データシリーズ

検査データについて



末梢血一般検査

今回は第4弾として、末梢血一般検査を紹介します。参考にして下さい。

なお基準範囲は神奈川県立がんセンターで用いているもので、検査法の関係で他院とは一致しない場合がありますのでご承知おきください。神奈川県立がんセンターのホームページでも検査データを紹介しておりますので是非ご覧になって下さい。（検査科部長 丹野秀樹）

略称	項目名	当院基準範囲	単位	解説
○末梢血液一般検査○				
WBC	白血球数	♂3.9~9.8 ♀3.5~9.1	千/μl	感染による炎症が起きていないかや、造血器の病気を調べる手がかりになります。
RBC	赤血球数	♂4.27~5.70 ♀3.76~5.00	百万/μl	貧血や多血症などを疑うときとその診断に役立ちます。基準値より低いときは貧血を疑い、下記のMCV、MCH、MCHCと合わせて貧血の原因を推測します。
Hb	ヘモグロビン(血色素量)	♂13.5~17.6 ♀11.3~15.2	g/dl	
Ht	ヘマトクリット	♂39.8~51.8 ♀33.4~44.9	%	
PLT	血小板数	♂131~362 ♀130~36.9	万/μl	血小板数が低下すると出血が止まらなくなります。逆に数が増加すると血栓が出来やすくなります。
○赤血球数指数○				
MCV	平均赤血球容積	♂82.7~101.6 ♀79.0~100.0	fl	赤血球の平均の大きさを表す指標です。
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	♂28.0~34.6 ♀26.3~34.3	pg	赤血球1個に含まれるHbの平均値を表す指標です。
MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	♂31.6~36.6 ♀30.7~36.6	%	一定量の赤血球中にどれくらいHbがあるかを表す指標です。
○凝固機能検査○				
PT-SEC	プロトロン時間	活性 70~130	%	血液が凝固し、止血するには血管内外の12の因子(血液凝固因子)が関与しています。PTはその因子のうちの血管外で働く因子の異常を見つける検査です。
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	25.0~34.0	秒	血液凝固因子のうち血管内で働く因子の異常を見つける検査です。
FIB	フィブリノーゲン	150~450	mg/dl	止血に関わる因子の1つです。血栓や炎症などに増加します。また、肝機能障害やFIBが著しく消費されたとき(血栓症)は減少します。
DD	Dダイマー	1.0以下	μg/ml	血栓が分解されたときに生じる物質です。高値の場合には、どこかに血栓がある可能性があります。
FDP	フィブリン分解産物	5.0以下	μg/ml	
TT	トロンボテスト	70%以上	%	ビタミンK依存性凝固因子(II、VII、X因子)活性を総合的に測定し、経口抗凝薬(ワファリン)のコントロール状態を知るための検査法です。
HPT	ヘパラスチンテスト	70~130%	%	肝障害によって合成低下が起こる凝固因子(II、VII、X因子)の総合的な検査法で、肝障害による血液凝固因子の産生低下や、蛋白合成能の抑制の指標になります。
AT III	アンチトロンピンIII	80~120%	%	凝固亢進状態を把握する重要な検査です。播種性血管内凝固症候群(DIC)で著しく減少します。
ESR	赤血球沈降速度(赤沈)	♂0~10 ♀0~20	mm/時	赤血球が試薬内を沈んでいく速さを見る検査です。異常がなくとも異常値を示すことがあり、逆に、明らかに病気であるのに正常値になることもあるため、この検査だけで診断を下すことはできません。また、特定の病気を診断するという性格のものでもありません。



第6回神奈川県立がんセンター
神奈川県・緩和ケア研修会開催

緩和ケア認定看護師

緩和ケアチーム専従看護師 山口里枝

2月1日～2日に上記研修が開催されました。がん対策基本計画で、がん診療に携わる医師が緩和ケアの基本的知識を習得するという目標を掲げ、がん診療連携拠点病院でこの研修の実施を義務付けています。この研修は「PEACE」というプログラムに準拠し講義や症例検討・ロールプレイ等を行います。

今回は、当センターの他に近隣施設の医師・看護師・薬剤師等40名の参加がありました。受講者の能動的参加のもと滞りなく研修を終了することができました。がん患者さんのQOL維持・向上には緩和ケアは支えになると考えます。

次年度以降も同研修を開催する予定です。



編集後記

本号は新棟移転後初めての発刊になります。病院が広がったせいや、職員同士がすれ違う機会が少なくなったような気がする、という声も聞こえます。今年のがんセンターたよりでは各部門から自己紹介をしていただき、職員の相互理解を深めたいと思います。また、病院を訪れる方々にとっては様々な部門を知る機会となり、当院をさらに利用していただくきっかけになれば幸いです。ソチオリンピックで活躍した選手を支えるスタッフと同様に、当院にも様々な部門で頑張っている職員が大勢います。新病院におきましても何卒よろしくお願ひ申し上げます。(企画情報部長 金森平和)



ボランティア会ランパスによる患者さんのための
3月・4月木曜ミニコンサート予定表

時間：午後1:30～2:00(約30分間)

3月6日	アンサンブル	ミュージズ
3月13日	フルート	吉野裕子
3月20日	フルート ピアノ	西郷昌代・川口規子 小倉一美
3月27日	アンサンブル	栄ゾリステン
4月3日	アコーディオン	園田容子
4月10日	ピアノ	神谷ゆりえ
4月17日	連弾	上月早苗 井上真記子
4月24日	ピアノ	山本絵里



平成25年度 9月・10月・11月・12月・1月
1日平均患者数

(単位：人)

区分	9月	10月	11月	12月	平成26年 1月
入院	318.8	266.0	267.5	330.3	299.1
外来	771.6	717.2	662.0	803.3	813.8

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241 8515 横浜市旭区中尾2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>